

各主体におけるグリーンインフラまちづくりの取り組み方

1 市民・事業者のグリーンインフラまちづくりの取り組み方

市民・事業者のみなさまは、次の3つのステップでグリーンインフラに取り組みましょう！



STEP 1 知ろう

- 身近な自然を意識して生活し、その機能を見つめなおしましょう。
- 自然に関するイベントに参加して、より深く知りましょう。

STEP 2 導入しよう

- 自分の管理する土地や建物等でグリーンインフラを導入しましょう。
- 導入したグリーンインフラを維持管理しましょう。

STEP 3 広げよう

- グリーンインフラの魅力を発信し、広げましょう。多くの人々がグリーンインフラにより実現した素敵な空間を訪れ、利用することで、まちのにぎわいとなり、企業等によるグリーンインフラまちづくりの後押しとなります。

STEP 1 グリーンインフラを知ろう

本市が実施した「環境対策に関する市民アンケート」によると、『「グリーンインフラ」という言葉も意味も知っていた。』と回答した方は908人中89名（9.8%）でした。

「グリーンインフラ」という言葉は、聞きなじみがなかったり、「インフラ」＝「大規模な整備」という印象があったりすることから、自分には関係のない話と思うかもしれません。

そこで本市では、グリーンインフラとは何か、どのような機能や効果があるのかについて興味・関心をもっていただくため、グリーンインフラのモデル整備等の取り組みを進めています。また、本市のグリーンインフラまちづくりの認知度向上に向け、今後もわかりやすい情報発信を行ってまいります。

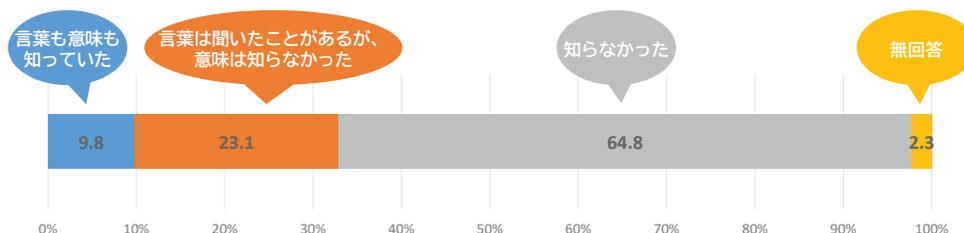
■グリーンインフラについて

自然環境がもつ様々な機能を活用し、持続可能で魅力ある都市づくりを進める取り組みのことをグリーンインフラと言います。自然環境には、樹木や花等の「緑」のみならず、土壌、水、風、地形といったものも含まれ、これらは、雨水貯留・浸透や気候の調整、生物の生育・生息の場の提供、良好な景観の形成など様々な役割を果たします。

問11 あなたは、グリーンインフラを知っていましたか。（○は1つだけ）

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1 言葉も意味も知っていた | (9.8%) |
| 2 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった | (23.1%) |
| 3 知らなかった | (64.8%) |
| 無回答 | (2.3%) |

「グリーンインフラ」知っていましたか？



図：令和7（2025）年5～6月実施「環境対策に関する市民アンケート」（名古屋市内に居住する満18歳以上の市民2,000人（外国人を含む））

グリーンインフラを知ろう

自然の機能を体感しよう

例えば仕事の休憩時間や通勤、散歩の際に辺りを見渡してみましょう。植物や水、土等、自然がどんな力を発揮しているか、思いを巡らせてみましょう。



自然の機能を活かしたお気に入りの場所を見つけよう

広場、カフェ、図書館、子どもの遊び場…自然がつくるお気に入りの場所がありますか？お気に入りの場所を見つけ、まちをもっと味わいましょう！



生きものを見つけよう

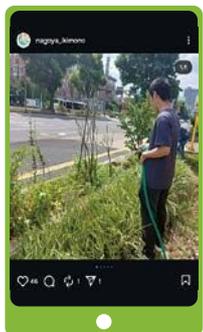
植物は花や実をつけ、鳥やチョウが来るといった季節ごとに楽しみがあります。スマートフォンアプリの中には、生きものの写真を撮ると種名を判定し、ゲーム感覚で自分の図鑑をつくれるスマートフォンアプリもあります。生きものを探しに行こう！



▲本市のオンライン参加型イベント「なごやいきものクвест」で活用している「Biome」

情報発信をチェックしよう

グリーンインフラの導入例等を情報発信します。みてね！



例えば…

なごやの自然・生きもの情報 Instagramより ▶

自然観察会等に参加しよう

区役所等の行政や市民団体が地域の環境に根差したイベントを実施しています。「まだこんな場所があったのだ」と気づかせてくれる風景が、あなたのそばにあるかもしれせん。



本市の状況～グリーンインフラの導入に向けたモデル事業～

本市では、グリーンインフラ導入に向け、情報発信や効果検証等のためのモデル整備を行いました。これを活用し、みなさまのグリーンインフラ導入につながる情報発信を行っていきます。



1

グリーンインフラ啓発スポットの整備
▶名城公園

IGアリーナの来場者動線において、生物多様性緑化や雨庭、保水性舗装を整備



啓発スポット全景

2

道路等への雨庭の導入
▶三の丸地区

道路等への雨庭の導入に向け、試験整備、追跡調査を実施



雨庭試験整備 (愛知県護国神社付近)

3

山崎川周辺での雨水浸透の取り組み
▶瑞穂公園

市民・事業者が自ら設置しやすい雨水浸透施設をモデル設置



雨花壇

STEP 2 グリーンインフラを導入しよう

「第5章 グリーンインフラの要素技術」や「第6章 グリーンインフラまちづくりに役立つ補助制度等」を参考に、ご自身が管理する土地・建物等におけるグリーンインフラの導入をお願いします。

グリーンインフラを導入しよう

玄関先に植木鉢を置こう

まずは手軽に植木鉢でも雰囲気が変わります。場所の制約があっても鉢なら成長をコントロールしやすくなります。



庭に1本の苗木を植えよう

育った姿をイメージし、敷地に余裕をもって植えましょう。



駐車場を緑化しよう

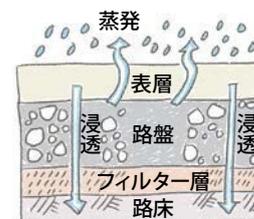
都市部において緑化面積を増やす効果的な手段です。



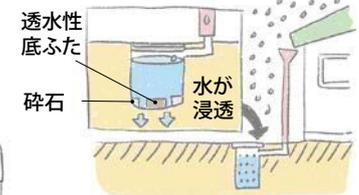
舗装や雨水ますを設置するときは透水性のものを選ぼう

透水性舗装や浸透雨水ますは、土壌の力を活かすグリーンインフラの要素技術のひとつです。

※設置に適さない地域もあります



透水性舗装



浸透雨水ます

生物多様性を意識した緑化をしよう

緑化の際に生きものに思いを巡らせたり、すみかやエサ場等に少しでも配慮したり、出来ることから生物多様性への配慮を加えてみましょう。



雨水を利用しよう

雨水タンクを設置して、雨水を利用してみましょう。貯めた雨水は植物への水やりや打ち水等に使用できます。



STEP 3 グリーンインフラを広げよう

グリーンインフラの魅力を発信し、広げましょう。多くの方がグリーンインフラにより実現した素晴らしい空間を訪れ、利用することでまちのにぎわいとなり、企業等によるグリーンインフラまちづくりの後押しとなります。

グリーンインフラを広げよう

グリーンがつくるお気に入りの場所をみんなに知らせよう

例えば、あなたが見つけた素敵な場所をSNS等で発信してみよう！

企業等のグリーンインフラまちづくりの後押しになります。



#やさなご

#グリーンインフラまちづくり

グリーンインフラマップで紹介しよう

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム※ウェブサイトにて「グリーンインフラマップ」が作成されています。企業敷地等でのグリーンインフラの導入事例は、周囲の方々の参考として、登録をご検討ください。



©Mapbox©OpenStreetMap

名城公園グリーンインフラ啓発スポット

名古屋市中区栄1丁目



名古屋環境局

名古屋市中区栄1丁目

グリーンインフラの取り組み紹介

お花畑を併せて公園である本館公園では、令和8年度に整備されるアジア・アジアパシフィック国際会議場併設13年度の本館は、約100年にわたる再整備を計画しています。

この中で、本館が抱える「グリーンインフラまちづくり」の一環として、本館公園を閉める空手に「グリーンインフラ」において、広く取っていただくための啓発スポットを整備しました。

啓発スポットには、生物多様性緑化や自然、ヒートアイランド対策のための保水性舗装を導入しました。



グリーンインフラ
マップ

※グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

グリーンインフラの社会実装を推進するために設立され、国、地方公共団体、民間企業、大学・研究機関等の多様な主体が幅広く参画する。

ちょっとPR 自然共生サイト

令和4（2022）年12月に採択された「昆明・モンリオール生物多様性枠組」の世界目標のひとつ「30by30」。これは、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようというものです。自然共生サイトは、この目標達成のため、企業・自治体・団体などが策定した、生物多様性の維持・回復・創出をめざす活動計画の実施区域を国が認定する制度のことです。本市では、市が申請し認定されたものの他、事業者の“みどり”も認定を受けています。いろんな“みどり”がつながって、大切な自然をより守れたらすてきですね！

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム
第6回グリーンインフラ大賞
【特別優秀賞】受賞



株三五

ECO35の森（令和6（2024）年9月認定）



株テクノ中部

本店ビル屋上ビオトープ（令和5（2023）年10月認定）



30by30
ロゴマーク

本市ウェブサイト「自然共生サイト」



2

名古屋市（行政）のグリーンインフラまちづくりの取り組み方



導入

- 再開発や施設更新の機会を逃さずグリーンインフラを導入し、官民連携で環境と経済の好循環を図ります
- 導入・維持管理費用が通常の整備より増す可能性があるため、必要に応じて費用対効果の検証も行いつつ進めます



維持管理

- グリーンインフラがより多様な機能を発揮できるよう、日常の維持管理や機能回復・向上を図ります



情報発信・誘導策の実施

- 情報発信による機運醸成、誘導施策により、市民・事業者のグリーンインフラまちづくりの更なる推進を図ります

(1) グリーンインフラ導入

第3章「各主体共通のグリーンインフラまちづくりの方向性」を踏まえ、新規のグリーンインフラ導入を進めます。特に、再開発や施設更新の機会を逃さず導入を検討します。

導入にあたっては、通常のインフラ整備に対しプラスαの費用が必要になる場合も想定されます。必要に応じ、費用対効果の検証等も行いながら、公共空間におけるグリーンインフラの実装を進めていきます。

(2) グリーンインフラの維持管理

本市には、公園・緑地、河川・ため池、農地、建物敷地内のみどり等既存のグリーンインフラがあります。これらが自然のもつ多面的な機能を発揮することで、私たちの暮らしを支えています。また、建物敷地等において、浸透雨水ますや透水性舗装、屋上緑化等グリーンインフラの要素技術（第5章）の採用にも取り組んでいます。

グリーンインフラには手入れが必要なものもあり、日常的な維持管理や修繕等を通じて、経年により低下した機能の回復や向上を図ることも必要です。

本市による取り組みとともに、市民・事業者のみなさまに公園等の手入れに協力をいただく仕組みについても継続して運用し、グリーンインフラがより一層多面的な機能を発揮できるよう、着実な取り組みを行っています。

(3) グリーンインフラまちづくりに関する情報発信・誘導策等の実施

情報発信による機運醸成、誘導施策により、市民・事業者のグリーンインフラまちづくりの更なる推進を図ります。

ちょっとPR 名古屋市は“ラムサール条約湿地都市”

みんなでごみ減量に取り組んで守った「藤前干潟」。渡り鳥の重要な休息地としてラムサール条約に登録されていますが、他にもいくつもの機能を発揮しています。自然ってすごいですね。

藤前干潟を守り続け、そこから様々な学びを得てきたみなさまの取り組みが評価され、令和7（2025）年7月、本市はラムサール条約湿地都市として認証されました。

あらためてこれから、自然を守り、自然の力を活かして「自然共生社会」の実現に向けて歩みを進めていきましょう！



図：藤前干潟

本市の状況～再開発等の機会を捉えたグリーンインフラの取り組み～

本市が行う再開発等の機会を捉えたグリーンインフラの取り組みを紹介します。

本市の取り組みに加え、市民・事業者のみなさまによる主体的・積極的なグリーンインフラの導入により、公共空間と建物外構の植栽等民間のみどりが連携し、魅力的な空間をつくり、環境・経済の好循環を創出します。



名古屋駅



リニア駅周辺の面的整備

・事業概要

リニア駅上部空間を、広場利用を主とした公共的空間として活用するとともに、それらに伴う道路の再配置、また、周辺街区の開発誘導や土地の高度利用促進等を図ることにより、まちの顔づくり・拠点づくり、防災性向上を面的に進めます。

・グリーンインフラの視点

人々が集い、憩い、交流する広場をめざすため、にぎわいのある空間や緑あふれる空間形成に努めます。



位置図



イメージパース (西地区)

栄



栄地区まちづくりプロジェクトの推進

久屋大通（南エリア）の再整備

・事業概要

名古屋都心の中心核のひとつである栄地区において、地区の特徴である豊かな公共空間の有効活用等によるまちづくりを進めます。「久屋大通（南エリア）再整備構想」に基づき、再整備によるにぎわい創出を目指します。

・グリーンインフラの視点

生態系の回復に配慮した植栽、雨水浸透構造を持つ園路や広場の設置等、自然環境の持つ多様な機能を活用する「グリーンインフラ」の視点を踏まえた公園設計に努めます。

金山



金山駅周辺まちづくりの推進

・事業概要

金山駅周辺ではアスナル金山の再整備や新たな劇場の整備とあわせ、交通結節点に相応しい都市機能の集積や多様な文化芸術に触れられるウォカブルなまちの形成を目指し、金山駅周辺地域全体の価値向上やブランディングを図ります。

・グリーンインフラの視点

まち全体の緑の量やその質の向上、ヒートアイランド対策等に資するグリーンインフラの取り組みにより、持続可能な未来に向けて環境負荷が少ないまちづくりを行います。



イメージパース

三の丸



三の丸地区まちづくりの推進

・事業概要

名古屋城三の丸地区の役割や位置づけを整理し、当地区をリニア時代のあいち・なごやの新たな顔として成長・発展させていくために、社会経済・環境等の潮流や、名古屋駅地区・栄地区等の周辺地区とのつながりを意識したまちづくりを推進します。

・グリーンインフラの視点

「環境の魅力を活かした価値を再生するまち」を「めざすまち」とし、令和12年度までの短期的な取り組みとして、護国神社前の道路の雨庭や名古屋市役所西庁舎前の花壇の整備を実施する予定です。



本市の状況～市の施設等における雨水流出抑制の取り組み～

本市では、治水施設の整備を着実に推進する一方で、雨水流出抑制等を組み合わせた浸水対策を進めています。

市役所をはじめとする各種庁舎、学校、市営住宅、公園等市の施設は、名古屋市防災条例で雨水流出抑制施設の設置が義務化されています。名古屋市雨水流出抑制施設設計指針では、緑地面積を除く敷地面積100㎡あたり4 m³（1 m²あたり0.04m³=40ℓ）の雨水を貯留・浸透させる施設の整備を目標として定めています。

本市の施設である上下水道局東部営業センターにおいても「雨水タンク」や「透水性舗装」、「浸透雨水ます」等の様々な雨水流出抑制施設を組み合わせて整備を行っています。

これらの整備を進め、降った雨を地中にしみ込ませたり、貯めたりすることで、河川や下水道等へ流れ出る量を減らし、浸水に対する安全度が向上します。

今後も引き続き、市の施設への浸透貯留施設の設置を着実に実施し、雨水流出抑制の推進を図っていきます。



図：雨水貯留浸透施設を設置した上下水道局東部営業センター（千種区）



整備中



図：グラウンドに雨水貯留浸透の仕組みを取り入れたたかわら公園（港区）

本市の状況～市の施設等における敷地内緑化の取り組み～

本市が設置する建築物については、芝生広場の設置や屋上緑化等により、緑の確保を進めています。



名古屋市博物館の前庭
芝生等の草地の広場*



緑土木事務所
駐車場の緑化（舗装面の工夫）



鳴海工場
屋上の緑化

*リニューアル改修を行っている名古屋市博物館の前庭（完成予定図）。天然芝の広場を設け、賑わいと憩いの場となるよう整備を進めています。

本市の状況～市が行うグリーンインフラを維持する取り組み～

本市では、寄附金制度やスポンサー花壇の仕組み、愛護会活動等公共のグリーンインフラの機能効果を維持する取り組みの支援メニューを用意しています。みなさまのご協力により、公共のグリーンインフラが魅力を発揮しています！

市の取り組みには、
市民・事業者のみなさまにも
力を発揮して
いただいています！

名古屋市への寄附

本市では、みなさまからいただいた寄附金により、里山を健全にしていく取り組み等を進めています。

- 里山保全寄附金
- 環境保全事業寄附金
- 中川運河再生寄附金
- 緑のまちづくり寄附金
- さくらの名所応援寄附金
- 公園事業寄附金
- 堀川再生寄附金
- 地産地消推進寄附金
- しだれ梅寄附金 等



▲名古屋市への寄附
本市ウェブサイト



側溝等の清掃

樹木は大切な自然ですが、側溝や雨水ますが落ち葉で詰まってしまうと機能が発揮できません。そのため、市民のみなさまにも、身近な場所での清掃への協力をお願いしています。

本市上下水道局ウェブサイト▶



○ 雨水が入りやすくなります



× ごみで雨水が入りにくい



× 植木鉢で雨水が入りにくい

スポンサー花壇

市民や事業者のみなさまに公園や街路の花壇のスポンサーになっていただく事業です。いただいた協賛金は、花壇に植える花苗や肥料の購入等に活用しています。



▲スポンサー花壇
本市ウェブサイト



愛護会活動

公園や街路樹の愛護会は、公園や街路樹の保全を行う地域のボランティア団体です。



公園
愛護会
本市ウェブ
サイト▶



街路樹
愛護会
本市ウェブ
サイト▶

